2008.4.1　第16号

吉野作造記念館だより

〈編集・発行〉特定非営利活動法人　古　川　学　人

吉野作造生誕一三〇年・没後七五年

吉野作造記念館　夜明け前

吉野作造記念館　館長　田中昌亮

今年は吉野作造生誕一三〇年・没後七五年である。

開館前の二年間を振り返ってみる。私は、教育委員会で嘱託として二年間仕事をした。吉野作造の書いた書籍・雑誌を入手すること。入手不可能な場合はコピーすること。京都では、京都大学松尾尊兊教授・元同志社大学総長田畑忍教授・同志社大学住谷馨教授・私の大学の同級生の立命館大学藤原壮介教授にもお世話になった。芦屋では田熊渭津子氏を訪ね『新旧時代』の集合写真の人物名、ペンネームの本名等を尋ねた。

大阪は、桃山学院大学研究所所長太田雅夫教授・東京では、東京大学三谷太一郎教授・法政大学袖井林二郎教授・東京の増田道義氏宅には三日間連続してお邪魔した。吉野の自筆原稿はじめ写真・書籍・雑誌等たくさんいただいた。

横浜の今井清一教授。そして仙台では東北大学史料館様をはじめ各大学の先生方に大変お世話になった。

吉野先生を記念する会様よりは数十年にわたり、収集した資料・書籍などご寄贈していただいた。

また、神田の古書街、横浜・京都・郡山そして仙台の古書市等に何度も出掛けた。

今では岩波書店から『吉野作造選集』も発行されて日記・現金出納簿も読むことが出来て大変便利になった。しかし夜は明けたのか。未だ、夜明け前のような気がする。もう一度基本からやり直します。

（この他にも多くの人からご指導いただいたが紙面の都合で省略した。）

コラム

NPO法人　古川学人
理事長
佐々木　源一郎

水戸黄門・鞍馬天狗などは、スーパーマンで、正義の味方のシンボルとして今なお人気があるようだ。

近ごろ気になることは、NPOなる名称の団体が広範囲に増加していることである。NPOは非営利組織の略語で「NPOとは継続的・自発的に社会貢献活動を行う営利を目的にしない団体」といわれている。

自発的参加の点ではボランティア活動である。

一九九五年、阪神淡路大震災が日本ではボランティア元年とされ、その時は、全国からボランティアとして、被災地を訪れた人達が、自発的自主的に組織化して災害援助、復興支援を行い大なる成果を発揮したことは、全国的に注目された。

一方、国、地方公共機関は最近、行政改革の一環として行政機能の合理化、経費節減の手段として、民営化や民間委託の担い手として、NPOが注目されている。

社会教育行政のあり方に於いても、NPO等ボランティア団体と幅広く連携協力して、学習活動がより豊かになるように環境整備の必要性を指摘している。

企画展紹介

『若き日の吉野作造 ―誕生～旧制二高時代―』

四月十三日(日)まで開催中

当館ではただ今、企画展「若き日の吉野作造　―誕生～旧制二高時代―」を開催中です。今年生誕百三十年を迎えた吉野。その原点ともいうべき古川、仙台での生活を、吉野の回想とともにたどります。ここで、その内容を一部紹介します。

Ⅰ　誕生から小学校時代（一八七八年～一八九二年）

吉野作造は、一八七八年（明治一一）、現在の大崎市古川十日町に生まれました。古川での吉野家の祖先は、祖先碑から一七二一年（享保六）死亡の治郎右衛門までさかのぼることができます。江戸時代には古川に住む代々町人の家柄であったようです。

父年蔵は、丁稚奉公から身をおこし一代で綿問屋を築きました。また家業の傍ら新聞雑誌の取次を副業としており、作造もそのような環境の中で、自然と活字に親しむようになりました。

六歳で古川小学校（現古川第一小学校）に入学し、作造は児童雑誌『小国民』の愛読や、雑誌への投稿、友人との雑誌作りを通して、さらに活字の世界に興味を持つようになりました。

また、小学校時代には二人の印象深い教師に出会いました。訓導の細川松三郎と、校長の山内卯太郎です。二人から歴史や読書、作文を教わり得意とするようになりました。その影響は大きく、作造は後年、著書の冒頭に献辞を捧げました。

Ⅱ　中学校時代（一八九二年～一八九七年）

一八九二年（明治二五）、小学校を首席で卒業し、同級生三浦吉兵衛とともに、宮城県尋常中学校（現宮城県仙台第一高等学校）に入学しました。同年開校された尋常中学校は、一年生を推薦によって募集し、志田・玉造郡からは、作造と三浦を含め十五名が選ばれました。入学祝いに町の有志から国語辞典『言海』が贈られ、父とともに小牛田駅から仙台へと旅立ちました。仙台では初め、古川出身で狐小路（現青葉区片平町）に住んでいた永沢小兵衛宅に下宿しました。

中学時代の作造

中学校では、国文学者大槻文彦や、ジャーナリストの服部誠一といった、東京で活躍する優秀な教師に恵まれ大きな影響を受けるとともに、友人たちとの回覧雑誌編集に熱中する文学少年でした。

古川の友人たちと（大崎タイムス社提供）

Ⅲ　高校時代（一八九七年～一九〇〇年）

作造は中学校も首席で卒業し、無試験で旧制第二高等学校（現東北大学教養学部）に入学しました。高校時代には、仙台浸礼教会で浸礼を受けキリスト教に入信しました。このことは、作造にとって人生の指針となる大きな出来事でした。

入信するきっかけとなったのは、尚絅女学校校長ミス・ブゼルの主催するバイブル・クラスへの参加です。聖書を英語で読むことから、作造も初めは英語学習の目的で参加したと思われます。ブゼルの講義は聖書の解釈や学術研究ではなく、信仰的、福音的なものでした。ブゼルの導きによって、作造をはじめ多くの学生が心動かされました。

今回の企画展では、尚絅学院所蔵のブゼル著『The Story of Bible Class』を展示しています。これは一八九九年（明治三二）夏、米国教会に送るために書かれたブゼルの記録書です。その中でブゼルは、作造の入信を喜び、イエス・キリストの十二弟子の一人ピリポというクリスチャンネームを授けたと書いています。

ブゼル送別会記念

古川学人吉野作造

東京大学出版会常務理事・編集局長
竹中英俊

二〇〇八年は吉野作造生誕百三十年、没後七十五年にあたる。宮城県古川（現・大崎市）に一九九五年にできた吉野作造記念館ではこれを記念し「吉野の思想と業績」をテーマとして論文を募集、審査の最中である。

小会は「天皇制国家とデモクラシーへの挑戦」に焦点をすえた松本三之介『吉野作造』を年明け早々に刊行する。本書は50年前に刊行を開始した「近代日本の思想家」全11巻の最終巻にあたる。シリーズ完結に先駆けて復刊した10巻分は幸い好評裡に迎えられている。

吉野が亡くなったのは一九三三年三月のこと。（松本三之介先生の師の一人にあたる）南原繁は『国家学会雑誌』に弔詞を寄せ、吉野について「先生を一言でスケッチすれば、自由の人格、自由人であったといえよう。」と述べている。一九三九年、アカデミック・フリーダム（立花隆編『南原繁の言葉』東大出版会、参照）が問われた河合栄治郎事件が起きた際、南原がつくった短歌――

灯ともる
　昼の廊下を行きつきて
吉野作造先生
　この部屋にいましき

東大法学部研究室の「一階の一番すみの、真夏の昼でも電燈がともっていた部屋、この部屋に吉野作造先生はいました。もしも、吉野先生がいましたら」という想いで歌ったものである（丸山真男・福田歓一編『聞き書南原繁回顧録』東大出版会）。

晩年吉野は宮武外骨等と共に明治文化研究会を組織しこの部屋で研究に勤しんだ。同人の木村毅編集の遺作『閑談の閑談』（書物展望社）で尾佐竹猛は吉野を「明治文化研究の母」と呼んだ。

葬儀には「本郷　呑気」という花輪があった。研究会の後は同人で歓談、時に猥談に及んだが、それは呑気のおでんと茶飯を喫しながらが恒例であったという（斎藤昌三「蒟蒻と猥談」『閑板書国巡遊記』平凡社東洋文庫）。

書籍販売のお知らせ

書籍名　『吉野作造』
シリーズ　近代日本の思想家⑪
著者名　松本三之介著
出版社名　東京大学出版会
発行年月　二〇〇八年一月
価格(税込)　三六七五円
書籍内容　「大正デモクラシー運動の思想的指導者」として名高い吉野作造の実像を新たな視点から描き出し、彼の思想形成の過程を丹念にたどる。日本にとっての近代、近代にとっての日本について考える手がかりを探るシリーズ。

当館にて販売しておりますので、是非お買い求め下さい。

「藤城清治版画展　光と影のシンフォニー」開催のお知らせ

開催期間：平成２０年４月２６日（土）～５月２５日（日）まで作品展示
：平成２０年５月１７日（土）ＤＶＤ上映会
（ケロヨンの大冒険・ブレーメンの音楽隊・銀河鉄道の夜）
：平成２０年５月１８日（日）
藤城清治氏のトークショー及びサイン会
会　　場：吉野作造記念館研修室
料　　金：小・中学生（無　　料）　高校生（２１０円）
一　　般（３１０円）
主　　催：古川ロータリークラブ
吉野作造記念館
藤城清治影絵展開催実行委員会
共　　催：大崎市　大崎市教育委員会
大崎地域広域行政事務組合
問い合せ：古川ロータリークラブ５０周年事業委員会
副委員長　笠原　電話　０２２９－２２－０５９５

春のデュエット

講演・講座依頼内容

年	月	日	主催者	講師	解説内容	会場
19	4	18	大崎市古川中学校	館長 田中　昌亮	「吉野作造の考え方」	大崎市古川中学校
	4	28	吉野先生を記念する会	高橋かおる 中鉢　真子	平成19年総会行事 企画展　特別解説	吉野作造記念館
	6	9	映画『日本の青空』上映を成功させる古川準備会	高橋かおる	「吉野作造と鈴木安蔵の師弟関係及び憲法研究会員岩淵辰雄らの活動」	大崎市市民活動サポートセンター
	7	10	宮城いきいき学園　大崎校	館長 田中　昌亮	「郷土の歴史と文化」	大崎生涯学習センターパレットおおさき
	8	22	宮城いきいき学園　石巻校	館長 田中　昌亮	「身近な歴史と文化」	東松島市コミュニティセンター
	11	2	宮城県大崎教育事務所管内中学校長会	館長 田中　昌亮	「大正デモクラシーの旗手」 ー吉野作造の思想と生涯ー	大崎生涯学習センターパレットおおさき
	11	23	映画『日本の青空』仙台上映をすすめる会	館長 田中　昌亮	「吉野作造とポツダム宣言・日本国憲法」	青年文化センター
	12	4	みやぎシニアカレッジ・アカデミー校	館長 田中　昌亮	「吉野作造と作造を巡る人々」	ホテルユニバース仙台
20	1	23	宮城いきいき学園 登米・栗原校	館長 田中　昌亮	「宮城の歴史」	登米市迫公民館
	2	10	全国商業教育研究協議会 東北ブロック研究集会	館長 田中　昌亮	「吉野作造を語る」	古川教育会館

VHS・CD・DVD 視聴コーナーのお知らせ

これまで当館において、講演をいただいた方々の貴重な講演会の様子や、当館で主催したさまざまな事業記録を視聴できます。視聴希望の際は、受付にお申し出下さい。

尚、貸し出しは出来ませんのでご了承下さい（館内での視聴のみ）。是非、ご利用下さい。

仙台白百合女子大学来館

平成十九年十二月一日に仙台白百合女子大学人間学部国際教養学科一年生の来館をいただきました。その際の学生の方の感想文と引率の大本先生に原稿を依頼しました。その内容を紹介します。

吉野作造及び吉野作造記念館について思うこと

仙台白百合女子大学　人間学部
国際教養学科教員
大本　泉

大崎市に実家のあった両親が、吉野家と交流があり、吉野作造の名前は、子供の頃から聞いておりました。吉野作造記念館を初めて参観したのは、七年程前のことです。テーマ別の展示は、吉野の多面的な活躍を明らかにし、センスのよい映画も、その足跡が効果的にまとめられていると思いました。同行した中国人の大学教員に「日本にもこれほどすばらしい人がいたことをなぜ、世界にもっと広めないのか」と言われたことが印象的です。

私の専門は、日本の近現代文学なのですが、その後、大学の授業「日本の社会と文化」にて、吉野作造の功績を追尋することにしました。吉野は地元宮城県出身であり、たとえば海外に「日本の社会と文化」を伝えるという問題意識をもった場合、国際的視野をもつ最適な人物であること、思想・政治・文化等といった多方面の領域で活躍したこと。さらに、吉野作造をとおして、日本の「近代」とはどういうものだったのかという問題を学生とともに考察することができると思ったのです。

四年前と今年度も、授業の一環として、学生と同記念館を訪れましたが、資料が一層充実したようです。学生は、一人一人異なる研究課題を選択しました。館長や学芸員の方々に直接質問をして、資料もコピーをしていただき、全員が満足して帰路につきました。この場を借りて、深く御礼申し上げます。

現代は、中央集権的な発想のひずみが、様々なところで生じているように思われます。これからの時代は、地方からも広い世界へ積極的に問題を提起し、意見を述べていく必要があるのではないでしょうか。吉野作造記念館館長田中昌亮氏を中心とする講座、田澤晴子氏（前主任研究員）による評伝、紀要論文集の発行等の活動を、一層充実させていただきたいと思います。たとえば教科書問題等でぎくしゃくした状況を乗り越えて、同記念館からの世界への発信が、アジア諸国との友好関係を結ぶ契機となりますことを期待しております。

吉野作造記念館を訪れて

仙台白百合女子大学　人間学部
国際教養学科一年
橋浦由佳

私は、今回大学の授業の課題であるレポートの資料を集めるために「吉野作造記念館」を訪れました。「吉野作造と中国」というテーマで、辛亥革命から第三革命までの間に、作造の中国に対する考え方の変遷、また当時の中国の時代背景がどのようなものであったのかについて調べていたのですが、記念館の資料は大変豊富で、たくさんの資料を得ることができました。レポートを完成させていくうちに、私は吉野作造をとおして、むしろ日本の歴史、とくに中国と日本の関係の難しさを――結果として少しかもしれませんが――認識することになりました。

国際化が進んでいる中で、英語などの第二言語のみの習得だけではなく、日本の知識を得ることも大変重要だと思います。外国語で話す前に、日本語でもいいのですが、日本の文化や人物について正確に語れる人はどれほどいるでしょうか。それほど多くはいないと思います。外国では、自国の文化等を上手く説明できる人が多いようです。また、外国の大学生と話していると、私たち日本にいる大学生が、いかに近現代史をなおざりにしてきたかがわかります。「吉野作造記念館」で作造という人物について学び、彼の生涯や国際性を理解することによって、このようなことを痛切に感じました。

最近、「日本にいるから日本語だけ話せればいい」とか、「歴史なんて関係ない」と考える人もいるようです。しかし、そのような考え方は、自分自身で世界へ視野を広げるチャンスを縮めているだけではないでしょうか。明治から大正にかけて、アジアだけではなくヨーロッパに渡り、実際に世界を見てきた吉野作造のスケールの大きさは、現代でも必要なものだと思います。同級生にも、「吉野作造記念館」を訪れてみることを勧めました。

最後に、丁寧に資料等の説明をしてくださった記念館の方々に御礼申し上げます。

吉野作造記念館を訪れての感想

仙台白百合女子大学　人間学部
国際教養学科一年
但野友美

私は「日本の社会と文化Ⅱ」の授業で、宮城県出身の政治学者吉野作造について学びました。吉野作造の活動や主張の根本には、高校時代に培ったキリスト教の思想が大きく反映されていると感じ、研究テーマを「吉野作造のキリスト教との出会い」にしました。授業の一環として吉野作造記念館に行くことにより、演習発表の資料を収集することができました。

吉野作造記念館で特に印象深いのは、常設展示場にある三面マルチスライド付きの本型巨大スクリーンです。当時の写真や映像を用いて、視覚と聴覚に訴えるその映像は、約二十分という上映時間を感じさせないほど内容の濃く、わかりやすいものでした。

「ジャーナリズムの人　吉野作造」というコーナーでは、吉野作造と縁のある人々について詳しい説明が記されていて、吉野作造を取りまく人間関係を簡単に把握することができました。

また「インターナショナリストとしての吉野作造」というコーナーでは、吉野作造のキリスト教信仰や、他国への理解など、国際主義者としての彼の活動がよく描かれていました。やはりキリスト教の思想が吉野作造の人格にあたえた影響は大きく、後の大正デモクラシーでの民本主義の提唱や、日・朝・中三国の学生懇談会の主催等の活動につながったのだと、私は改めて実感しました。キリスト教自体が、日本の近代化に大きな影響を与えたことも認識しました。

吉野作造記念館館長をはじめ、学芸員の皆様には、個人的に質問をした際に丁寧なご回答をいただき、質問内容に関連した資料を印刷していただく等、とても親切な対応をしていただきました。原稿や書簡、写真、遺品等の貴重な展示物を直に見ることによって、書籍だけからでは充分伝わらない吉野作造の人物像を窺うことができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。

また今後も記念館を活用し、新たな研究テーマを設けて、吉野作造について自分なりに研究をしていきたいと思います。

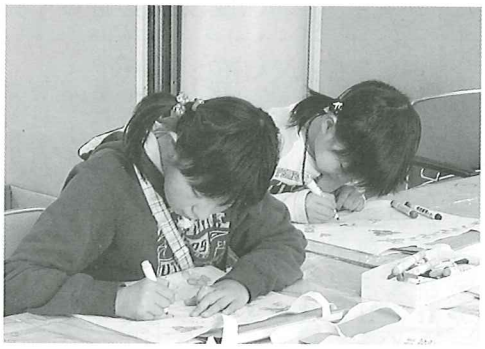
これまでのイベント紹介
2007年4月～2008年3月

ゴールデンウィークイベント
2007年5月4日～5月6日

恒例のゴールデンウィークイベントは、たくさんの親子連れで賑わいました。

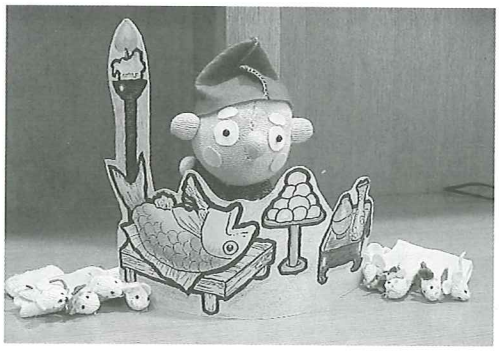
「オリジナルバッグを作ろう」コーナーでは、白い布バッグにペンやスタンプを使って模様を入れ、エコバッグを作製。子供たちは出来上がったものを見せ合いながら「これを持って早く買い物に行きたい！」と大興奮でした。

館内に展示してあるものを自由にスケッチして巡る「お絵かき」コーナーでは個性豊かな作品が並び、また研修室で紙芝居が始まると、お話の最後にクイズに答えてアメ玉を貰おうと奮闘する子ども達の姿も見られました。



サマーイベント
2007年8月4日

記念館で夏休みのひとときを過ごしてもらおうと開催したこのイベントでは、ストーンアートやマグカップ作りに挑戦する「工作教室」の他、吉野の子ども時代から政治学者となるまでの出来事を紹介した「写真展」、小津安二郎監督の映画「晩春」を上映しました。今回初めて試みた職員手作りの人形劇は大好評。「おむすびころりん」では、子ども達も人形と一緒に声を合わせて歌いました。



吉野作造講座
2007年9月22日～12月8日

今年も当館、田中昌亮館長による吉野作造講座を開催しました。講座では『吉野作造日記と現金出納簿を読む』を六回に分けてお話しをしました。

第一回　①吉野作造と新明正道
②吉野作造日記・現金出納簿　一九〇七（明治四〇）年

第三回　①吉野作造と鈴木義男
②吉野作造日記・現金出納簿　一九一五（大正四）年

第四回　①吉野作造と河村又介
②吉野作造日記・現金出納簿　一九一七（大正六）年

第六回　①吉野作造と長谷川如是閑
②吉野作造日記・現金出納簿　一九一八（大正七）年

第七回　①吉野作造と佐々弘雄
②吉野作造日記・現金出納簿　一九一九（大正八）年

第八回　①吉野作造と白柳秀湖
②吉野作造日記・現金出納簿　一九二〇（大正九）年

外部講師を招いての講座として

第二回　吉野先生を記念する会前会長、高橋よし子氏が「古川の町が歴史の表舞台に立った日」～明治九年・天皇東北巡幸～についてお話しをしました。

第五回　宮城教育大学非常勤講師、後藤一蔵氏は関東大震災―「民衆の警察化」と「東大ＹＭＣＡ」の動きを中心に考える―について講義しました。

読売・吉野作造賞受賞者講演会
山本吉宣氏講演会
2007年10月20日

二〇〇七年度読売・吉野作造賞受賞者は青山学院大学国際政治経済学部教授、山本吉宣氏です。受賞著書は『「帝国」の国際政治学―冷戦後の国際システムとアメリカ―』です。今回は「国際政治と民主主義」をテーマに、政治経済学者として世界を見すえた内容を講演していただきました。講演終了後は著者のサイン入り受賞作を限定販売しました。

中学生招館事業
2007年10月24日

大崎市内の中学生を対象に、吉野作造を学んでもらうための事業です。一〇月二四日に岩出山中学校二年生九二名が来館しました。社会科担当三浦先生と見学の打合せを行い、当館で用意した送迎バスを利用していただき、スライド説明一五分、ビデオ上映二〇分、当館で作成した展示室ガイドを使用しての自由見学二〇分という内容で見学していただきました。当日は歴史の授業の一環として各生徒、職員の説明を興味深く聞き、充実した時間をすごしていました。

寺島実郎氏特別講演会
2007年11月1日

吉野先生を記念する会と吉野作造記念館の主催で、『吉野作造と現代日本の進路』をテーマに、寺島実郎氏特別講演会を開催しました。日本が重視するに日本側の視点からみた日米関係、しかしアメリカにとっての関心事である米中関係という現状や、時代の転換期を生きた吉野作造についての内容でした。大崎市内はもちろん県内各地から多くの来館者がありました。

講演終了後には、著書『経済人はなぜ平和に敏感でなければならないのか　寺島実郎の発言Ⅱ』を抽選で五〇人に無料進呈されました。

吉野ネットワーク交流事業
「次世代人材育成研修会」
2007年9月6日～8日

読売・吉野作造賞受賞者を中心に、継続的に意見交換をしながらネットワークの構築を進めました。学生、行政、企業家の方々を対象とし、合宿研修会を実施、講義やディスカッションを通して、情報交換や、視野・見識を広げ次世代に役に立つ人材を育成する事業を行いました。

研修会では、講師に、猪木武徳氏、阿川尚之氏、苅部直氏、御厨貴氏、清水唯一朗氏の参加を頂き、九月六日～八日の三日間の合宿研修（セッション及びディスカッション）を左記の通り実施。

●第一セッション
「吉野作造とその時代」
講師：御厨　貴氏

●第二セッション
「吉野作造と思想」
講師：苅部　直氏

●第三セッション
「トクヴィルの思想」
講師：猪木　武徳氏

●第四セッション
「吉野、朝河、トクヴィル」
講師：阿川　尚之氏

●第五セッション（修了セッション）
……受講者と講師による公開討論会

吉野作造研究論文公募事業
2007年6月1日～2008年5月31日

二〇〇八年は吉野作造生誕一三〇年、没後七五年に当たります。その記念事業として吉野作造研究論文を募集し、一次審査を通過した一一名の方に、二次審査へ向けて五月末までに本論文を提出していただくことになっています。

七月二五日に最優秀賞一名、優秀賞二名を決定し、入賞者の論文を『吉野作造研究』第五号に掲載します。

二〇〇七年四月～二〇〇八年二月 寄贈資料一覧

（順不同 敬称略）

多くの方のご厚意を得て貴重な資料をご寄贈いただいております。厚く御礼申し上げます。

〈資料名〉　〈寄贈者〉

『新島襄とその周辺』　他三点　太田雅夫
『近代知識人の西洋と日本　―森口多里の世界―』　秋山真一
『雲の柱』第二一号　賀川豊彦記念　松沢資料館
『宮武外骨此中にあり』第六巻～第九巻　他五点　菅野又雄
『竹久夢二浪漫画帖』　高橋よし子
『近代日本研究』第二三巻　他一点　慶應義塾福澤研究センター
「栗原亮一と旧自由党系のアジア通商計画」（『日本歴史』第六八三号抜刷）　他一点　中元崇智
『東北学院資料室』第六号　仁昌寺正一
『大学史紀要』第一一号　他二点　明治大学大学史資料センター
『内ヶ崎作三郎の足跡をたどる』　小野寺宏
『日本歴史』第七〇八号　吉川弘文館
『郷土たじり』第二八号　他三点　平野一郎
『日本改造の具体案』　三浦孝一
『憲法は押しつけか　鈴木安蔵の生地・小高からの報告』　他八点　佐藤鶴雄
『仙臺文化』第五号　他一点　『仙臺文化』編集室
『自由民権』第七号　他二五点　町田市立自由民権資料館
『東京朝日新聞』一九二六年五月九日付（複写）　他三点　田澤晴子
『三田國文』第四四号　松村公子
『みやぎ聞き書き村草子』第四集　他二点　境数樹
『「帝国」の国際政治学　―冷戦後の国際システムとアメリカ』　読売新聞東京本社
『吉野作造通信』第九号　永澤汪恭
松岡駒吉あて吉野作造書簡（複写）　芳賀清明
『週刊　日本の百人』第八三号「原敬」　十象舎
『歴史文化ライブラリー七五　マンガ誕生　大正デモクラシーからの出発』　佐々木一郎
『脳力のレッスンⅡ　―脱九・一一への視座』　グローバル・インフォメーション・ネットワーク総合研究所
『近代日本の思想家一一　吉野作造』　他一点　東京大学出版会

利用案内

開館時間
午前９時～午後５時まで（入館は４時３０分まで）

入館料
一　般　３１０円　　高校生　２１０円
小中学生　１００円
（団体２０名以上、割引有）

休館日
月曜日（但し祝日・振替休日に当たる場合は翌日）
年末・年始（１２月２９日～１月３日）

バックナンバー

「吉野作造記念館だより」
1号～15号

ご希望の方は記念館まで。
（※一部コピーで対応しております。ご了承下さい。）

吉野作造記念館
〒989-6105　宮城県大崎市古川福沼1丁目2番3号
TEL　0229－23－7100
FAX　0229－23－4979
E-mail　yoshino-npo.fg@blue.ocn.ne.jp
URL　http://yoshinosakuzou.jp/